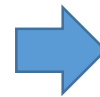


| | | |
|---------|---|----------|
| 急性期リハ事例 | 年齢:65歳 性別:男性 疾患名:小脳出血 | 介護保険 未申請 |
| | 【介入までの経緯】 病前は妻、息子、数名の従業員と花屋を営んでいた。車で配達中に小脳出血を発症し、当院へ救急搬送された。入院3日目より作業療法が開始された。 【本人の生活の目標】 本人:花屋である自分の店にまた立ちたい。 家族:自分のことが自分のできるようになってほしい。 | |

| | 開始時(発症5日後) | 中間(1ヶ月) | 終了(2ヶ月) |
|-------------|---|---|---|
| ADL・IADLの状態 | <ul style="list-style-type: none"> ○移動は車椅子を使用し、介助されている。 ○歩行は平行棒内歩行で軽介助を要する。 ○座位、立位でのバランスは不安定で眩暈も生じているため、便器や車椅子の乗り移りには介助を要している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○病棟内の移動は独歩だが、ややバランスが不安定で耐久性も低いため付添いが必要である。 ○手すりを使用し、トイレや車椅子の乗り移りは自立している。 ○スロープの昇降は不安定である。 | <ul style="list-style-type: none"> ○セルフケアは全自立した。 ○店内の環境で鉢植えの運搬が可能になり、店に立つことができた。 ○配達は息子が担っている。 |
| 生活行為の目標 | ○病棟のトイレ動作が自立してできる | ○病棟内の生活は独歩自立できる。 ○店内の環境で、鉢植えの運搬ができる。 | 【考察】 また店に立つという強い思いは生産的な意味ではなく、妻と長年切り盛りしてきた店を持っている誇りからくるものであった。よって店にしていることができることを主眼に置き、その中でできることを話し合った。店の環境を聴取し、模擬的な環境下で反復して練習し自信を得たことが退院後の不安軽減に繋がった。 |
| 介入内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○座位・立位バランス練習 ○手すりを使用した立ち上がり練習 ○手すりを使用したズボン操作練習 ○病棟トイレでのトイレ動作練習 | <ul style="list-style-type: none"> ○立位バランス練習 ○入浴動作練習 ○応用歩行練習 - スロープの昇降 - 鉢植え運搬 | |



結果: 自宅から店までは従業員が送迎し、花屋である自分の店に立つことができた。店内では軽い鉢植えの運搬や接客を行っている。病前行っていた配達は息子が担っている。

課題: 自動車運転に関する支援に関して、地域によっては一律一定期間不可なこともあり、なかなか明確なアドバイスができていない現状である。